

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10579001				
授業名	文学作品と文学表現 A	形態	講義	単位	2
担当教員	白井 伊津子				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	火曜4限		
授業目的	日本古典文学の主要な流れ（文学史）を知識として身につけるとともに、文学作品が社会のさまざまな背景・環境を踏まえて成立することを作品（表現）の読解を通して学び、時代を超えて普遍的なものへの共感的な感性を磨く。				
授業内容	具体的には、わが国最古の歌集である『万葉集』の、とくに挽歌（死者に関する歌）を取りあげ、歴史、風土、文化、思想的な背景などにも触れながら読解していく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1・文学史の基礎的な知識を習得している。 2・文学作品読解のための基礎的な方法を理解したうえで、作品を鑑賞することができる。 3・文学作品と自己との関係に関心を持ち、内省することができる。 4・文学への興味と関心を高め、継続して作品を鑑賞する態度を育てている。 				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	アクティブラーニングの学習法のひとつであるLTDの形式を随時用いながら進めていく。LTDでは、テキストの理解を深めるために、受講生同士でのグループ討議を行う。従って、事前学習として、テキストの予習が不可欠である。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	教員の配布する資料を用いる。				
評価方法	5回、10回、15回に実施する知識・理解度テストは、到達目標の1に対応しており、この成績に評価の30%をあてる。なお、基準点（6割）に満たない場合、授業内に実施する再テストを受けなければならない。 事前・事後学習の内容は、到達目標の2～4に対応しており、この内容に評価の40%をあてる。グループ討議は、到達目標の2～4に対応しており、貢献度（グループ内他者評価）に評価の30%をあてる。				
評価基準	事前・事後学習の内容（40点）、グループ討議における貢献度（30点）、第5回・10回・15回に実施の理解度テスト（30点）によって総合的に評価する。なお、理解度テストは基準点に満たない場合、授業内に実施する再テストを受けなければならない。 0～59点：不可、60点～69点：C（合格）、70点～79点：B（合格） 80～89点：A（合格）、90～100点：S（合格）				
試験・レポート等のフィードバック	5回、10回に実施の知識・理解度テストは返却する。 14回までに提出された事前学習課題は、評価を付して返却する。不足していた箇所を補い再提出することが望ましい。				
注意事項及び履修条件	本講義はLTDの形式を用いるため、授業前の事前学習は不可欠である。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	講義要覧（シラバス）を読み、授業の目的と到達目標を確認する。また、関心のある日本の古典文学をひとつ取りあげ、どのような点に惹かれるのか、自分の考えを400字程度にまとめておく。
授業内容	本講義の内容と学習の進め方について説明する。また、古典の主要な文学作品について、「韻文」と「散文」、「歌」「物語」「説話」「随筆」といった文学形態について解説するとともに、文学史の区分とその流れを概観する。 本時の到達目標としては、（1）本講義における学習の進め方を理解すること、（2）文学史におけるジャンルわけについて知ることの2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。事前学習に於いてとりあげた古典文学のジャンルや特徴について確認をする。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第2回	
事前学習	『万葉集』の概要を百科事典などで調べ、プリントに記述しておく。
授業内容	わが国最古の歌集である『万葉集』について、編纂された時代、収められる歌の歌風などについて、和歌史における主要な歌集と比較しながら概説する。 本時の到達目標としては、（1）『万葉集』という歌集の編纂された時代と歌風について概要を理解すること（2）三代集・三代集について学ぶことの2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。『万葉集』の時代に即して、関心のあることなどがらなどを取り上げて調べ、プリントにまとめておく。

参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。
------	---

第3回	
事前学習	『万葉集』の全巻を部立てに沿って通覧し、気が付いた点をプリントに記述しておく。
授業内容	『万葉集』の編纂が三大部立を軸にしていることや、4期に時期区分される『万葉集』の各時期に活躍した歌人について学ぶ。 本時の到達目標としては、(1)『万葉集』の編纂のあり方、(2)三大部立について学ぶことの2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。勅撰集の巻の構造との違いについて考えたことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第4回	
事前学習	配付資料「聖徳太子の歌」を読み、課題プリントを仕上げしておく。
授業内容	『万葉集』に収められる聖徳太子の、死人を見て作る歌(巻3・415)を、『日本書紀』収載の例と比較しながら読解する。伝誦の歌のあり方と『万葉集』の編纂について理解する。 本時の到達目標としては、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)伝誦される歌のあり方について学ぶこと、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。文字を用いない、口誦による歌の受容について、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第5回	
事前学習	知識・理解度テスト(1)に備え、これまでの学習を振り返っておく。また、配付資料を読み、課題プリントを仕上げしておく。
授業内容	知識・理解度テスト(1)を実施する(実施後すぐに解説)。 『万葉集』の「天智天皇挽歌群」(巻2・147～155)と呼ばれる作品を読解する。 到達目標は、(1)古代の死に関わる儀礼の場の変遷と歌との関係について理解することである。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。死の儀礼の場における歌の意義について、考えたことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第6回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げしておく。
授業内容	『万葉集』の有間皇子、大津皇子の自傷の歌(巻2・141～142、巻3・416)を中心に読解する。 本時の到達目標としては、(1)作者の置かれた状況・環境について理解すること、(2)悲傷する心の表現の方法について知ることの2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。悲傷する心の表現方法について考えたことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第7回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げしておく。
授業内容	『万葉集』の柿本人麻呂の挽歌の中から、日並皇子挽歌(巻2・167～169)明日香皇女挽歌(巻2・196～198)を中心に読解する。 本時の到達目標は、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)生と死の捉え方について考察すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する歌を調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集 1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第8回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げしておく。
授業内容	『万葉集』の柿本人麻呂の挽歌の中から、泣血哀慟歌(巻2・207～216)を中心に読解する。 本時の到達目標としては、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)当時の中国文学の受容について理解すること、の2点である。

事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。
第9回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	『万葉集』の柿本人麻呂の挽歌の中から、石中死人歌（巻2・220～222）を中心に読解する。本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）聖徳太子の歌との違いを考察すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第10回	
事前学習	知識・理解度テスト（2）に備え、これまでの学習を振り返っておく。配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	知識・理解度テスト（2）を実施する(実施後すぐに解説)。 『万葉集』の山上憶良の「日本挽歌」（巻5・794～799）を中心に読解する。到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）山上憶良の歌人としての意識を理解すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第11回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	『万葉集』の山上憶良の「古日に恋ふる歌」（巻5・904～906）を中心に読解する。本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）仏教思想の受容について考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第12回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	『万葉集』の山上憶良の「熊凝哀悼歌」（巻5・886～891）を中心に読解する。本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）長歌と反歌との関係について考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第13回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	『万葉集』の伴旅人の「亡妻挽歌」（巻3・438～440、446～453）を中心に読解する。本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）短歌の連作について理解すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第14回	
事前学習	配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	『万葉集』の伴家持の「亡妻悲傷歌」（巻3・462～474）を中心に読解する。本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）旅人の歌との表現方法の相違について考えること、の2点である。

事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する事がらを調べ、理解したことをプリントにまとめておく。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第15回	
事前学習	知識・理解度テスト（3）に備え、これまでの学習を振り返っておく。配付資料を読み、課題プリントを仕上げておく。
授業内容	知識・理解度テスト（3）を実施する(実施後すぐに解説)。また、全体のまとめとして、グループ討議を行い、グループの代表者が全体発表を行う。 到達目標としては、（1）死に向き合う心のあり方が、文芸的な営みとどのような関係があるのか考察できること（2）グループ討議において、自身の考えを的確に伝えたとともに、さまざまな意見を聞いて考えを深めること、の2点である。
事後学習	他者の意見を聞いて、さらに考えたことをまとめておく。興味をもった古典文学作品を鑑賞する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--